

目 次

広島大学マスターズ総会メール審議のご案内	1
「令和2年度事業」の報告	
令和2年度の全ての事業・行事が終了しました	2
新型コロナ禍によるマスターズの行事・事業への影響について	3
「令和3年度事業」のご案内	
令和3年度も広島大学の「平和教育」に参加します	4
令和3年度も東広島市民講座が始まります	5
「会員エッセイ」コーナー	
一般社団法人「健康づくりEネット東広島」について（渡部和彦）	7
美・談論・公共性—新しい市立美術館に思う（金田 晋）	8
会員情報	10

広島大学マスターズ総会メール審議のご案内

下記のように、定例総会議事の正会員のみによるメール審議を開催しますので、ご参加いただきますようお願い致します。（谷本能文）

令和3年度（第16回）定例総会メール審議

日時 令和3年6月5日（土）メール審議開始
場所 メールによる審議
次第 代表幹事挨拶
令和2年度事業活動報告
令和2年度会計報告・会計監査報告
令和3年度事業計画
令和3年度予算案
新入会員の紹介 など

※収束の見通しが立たずリバウンド感染が懸念されるコロナ禍第三波に対する感染防止の観点から、昨年度に引き続き、総会議事を正会員のみによるメール審議とし、総会直後の懇親会を中止といたします。ご理解くださいますようお願い申し上げます。

「令和2年度事業」の報告

令和2年度の全ての行事・事業が終了しました

広大マスターズは令和2年度(2020年度)も、さまざまな活動をしてきました。しかしながら、コロナ禍のなか、いくつかの行事・事業が中止あるいは変更のやむなきに至りました。主な活動を一覧表で示します。なお、各行事・事業の詳細、議事録、報告レポートなどは、マスターズHP「会員版」(<https://masters.hiroshima-u.ac.jp>)の「行事・事業の報告」に記録してありますので、ご覧ください。(平田敏文)

事業種別	開催日	事業内容	開催場所
HM行事 (総会)	6月6日 (土)～13日(土)	第15回総会 (メール審議)	
HM事業 (例会)	9月13日 (日)	第26回広大マスターズ例会 (第10回広大マスターズ・ウォーキング大会)	広大構内・二神山
HM行事 (講演会)	11月28日(土)	第12回マスターズ講演会(オンライン講演会) 「西条のお酒と大学」相田美砂子(広島大学特任教授)	
広島大学 (教養教育)	第2ターム	平和と人間Aー環境と生物の未来へー (講義担当)松田治男、深宮齊彦、松田正典、加藤範久、上 真一、安藤忠男、金田 晋、鈴木寛一、三浦省五、平田敏文、池上 晋、岩田賢司、池田秀雄 平和と人間Bー人間と文化の未来へー (講義担当)松田治男、松田正典、深宮齊彦、三浦省五、加藤範久、池上 晋、難波平人、池田秀雄、平田敏文、渡部和彦、金田 晋、原野 昇、山代宏道、岩田賢司	広島大学
広島大学 (留学生教育)	冬期	留学生のための短期研修講座(日本文化特別研修) 金田 晋:日本の絵画ー絵巻物世界ー 渡部和彦:日本の伝統スポーツと礼ー武術から武道へ(剣道の演技あり)ー	広島大学
東広島市 (市民講座)	通年	「小学生のための実践的な将棋講座」(早瀬光司)8/3, 8/4, 8/11, 8/12 「万葉集ー歌と精神ー」(金田 晋)10/2, 11/6, 12/4, 2021年1/8 「市民生活に身近な法律問題」(鳥谷部 茂)2021年2/6, 2/13, 2/20, 2/27	市民文化センター
東広島市 (出前講座・出張講義)	通年	「食べ物と健康ー健康寿命を延ばす食べ物」(室岡義勝)9/5, 11/1 「健康食品とサプリメントの選び方」(室岡義勝)12/8 「小学生のためのおもしろ理科実験」(谷本能文・樋高義昭)2021年1/9	東広島市内
広島リカレント学院	通年	専門講座:英語(三浦省五)、健康ウォーク(渡部和彦) 教養講座:数学による多様な図形認識について(今岡光範)、将棋の楽しさとその仕組み・歴史、及び囲碁との相違(早瀬光司)、学生たちが考える人類の課題(安藤忠男)、ジャズ(小方 厚)、令和の時代の栄養学(加藤範久)、液体窒素を用いた易しい理科実験(谷本能文)、身近な繊維のはなし(高田忠彦)、画廊「梟の部屋」から戦後広島美術を見る(金田 晋)、水素の贈り物ー低炭素社会の実現を目指してー(藤井博信)、中・高齢者の生活体力(健康体操あり)(渡部和彦)、健康年令を楽しもう(牟田泰三)	広島市内
ちゅーピーカルチャーセンター	通年	「レギュラー講座」 「近代美術」(金田 晋)、「水彩・油絵」(難波平人)	東広島市内

“新型コロナ禍”によるマスターズの行事・事業への影響について

(1) 市民フォーラム

令和2年度市民フォーラムは、令和3年3月27日（土）市民文化センターアザレアホールにおいて、「美術と教育—新東広島市立美術館開館にあたって—」というタイトルで準備しましたが、コロナウイルス蔓延のため、やむなく中止になりました。次年度まで市の補助金は継続される予定なので、令和4年2月12日（土）同上の会場を確保して開催する予定にしております。（池田秀雄）

(2) 東広島市民講座

令和2年度市民講座は、コロナウイルス感染拡大の危険性により、発声練習を中心とする中国語講座が前期・後期ともに中止となった。前期の小学生の将棋講座、後期の万葉集、法律問題などに関する講座は、すべて20名以下の定員となり、参加者は熱心に聴講され盛り上がりは見せたものの縮小規模となりました。令和3年度も聴講生募集定員は例年の約半数でスタートし、コロナ禍回復次第で定員を増加させる予定です。（三浦省五）

(3) 広島リカレント学院講座

新型コロナウイルスの全国的流行の影響で、広島リカレント学院は、20回目の講座（2020年3月4日）で、休講に追い込まれる事態となりました。その後について報告します。

広大本部の感染防止指針に従い、講座再開に向け、学院事務局主導で、感染対策を迅速かつ丁寧に実施し、更に広大本部の情報を確認の上、リカレント学院両講座（教養講座、専門講座）の再開を決断した（2020年9月2日）。引き続き、感染対策を継続し、両講座全40回を実施することができた（2021年1月13日）。

現在、広島リカレント学院は、令和3年4月7日（水）からの第2期目のスタートを目指して準備中です。今後ともご協力のほど、よろしくお願いいたします。（渡部和彦）

(4) ちゅーピーカルチャーセンター西条寺家教室

HM通信第39号（8月31日発行）続報。令和2年中はCOVID19の影響下にあった。それでも9—12月、難波平人講師「水彩・油絵」（第1金）計4回、金田 晋講師「近代美術の世界」（第2・第4金）計8回実施した。どちらもセンター創設の2013年以来続く教室である。現在、難波教室は9名が受講、講師指導のもと展覧会に意欲的に出品している。金田教室は8名が受講、広島市や三原市からも参加、美術をテーマに活発なゼミナールとなっている。（金田 晋）

令和3年度も広島大学の「平和教育」に参加します

広島大学では、2011年度から平和科目（選択必修，2単位）を開設しており、広大マスターズはこの平和科目群に、2021年度も「平和と人間A」、「平和と人間B」の2科目を提供します。これらの2科目は昨年と同様いずれも第2ターム（6月9日～8月5日）の月曜日に開講されます。「平和と人間A」が1・2および3・4時限、「平和と人間B」が5・6および7・8時限の開講となります。昨年度はコロナ禍の中での授業となり、授業は全てオンライン授業となりました。状況次第では2021年度の授業もまた同様となる可能性もあります。

なお、2021年度の授業から、平和と人間Bの主担当が松田治男から池田秀雄に交代となります。（松田治男）

平和と人間Aー環境と生物の未来へ（主担当：松田治男）

- 第1回 ガイダンス 授業の狙いと講師の紹介（松田治男・元生物圏科学研究科）
- 第2回 貧困と栄養（加藤範久・元生物圏科学研究科）
- 第3回 広島投下の原子爆弾の構造・威力・被害と放射線障害（松田正典・元総合科学部）
- 第4回 未来社会の作り方（安藤忠男・元生物圏科学研究科）
- 第5回 人類が直面している諸課題（安藤忠男・元生物圏科学研究科）
- 第6回 現代哲学と平和（金田 晋・元総合科学部）
- 第7回 平和と国際政治（岩田賢司・元国際協力研究科）
- 第8回 松原美代子さんからの平和メッセージ（三浦省五・元教育学研究科）
- 第9回 平和と科学技術ー豊かな生活を求めて（平田敏文・元理学研究科）
- 第10回 バイオテクノロジーと食の安全（池上 晋・元生物圏科学研究科）
- 第11回 環境と再生可能エネルギー（鈴木寛一・元生物圏科学研究科）
- 第12回 国際協力の過去と未来（池田秀雄・元国際協力研究科）
- 第13回 絶海の孤島で起こった環境破壊と社会崩壊：モアイ像は何を見たか？
（上 真一・元生物圏科学研究科）
- 第14回 天然物と人間，キニーネとマラリア（深宮齊彦・元生物圏科学研究科）
- 第15回 貧困・感染症・国際協力（松田治男・元生物圏科学研究科）

平和と人間Bー人間と文化の未来へ（主担当：池田秀雄）

- 第1回 ガイダンス 授業の狙いと講師の紹介（池田秀雄・元国際協力研究科）
- 第2回 松原美代子さんからの平和メッセージ（三浦省五・元教育学研究科）
- 第3回 貧困と栄養（加藤範久・元生物圏科学研究科）
- 第4回 バイオテクノロジーと食の安全（池上 晋・元生物圏科学研究科）
- 第5回 平和と科学技術ー豊かな生活を求めて（平田敏文・元理学研究科）
- 第6回 広島投下の原子爆弾の構造・威力・被害と放射線障害（松田正典・元総合科学部）

- 第7回 平和と美術（難波平人・元教育学研究科）
- 第8回 平和と国際政治（岩田賢司・元国際協力研究科）
- 第9回 現代哲学と平和（金田 晋・元総合科学部）
- 第10回 戦争と記憶-比治山に眠るフランス兵士（原野 昇・元文学研究科）
- 第11回 絶海の孤島で起こった環境破壊と社会崩壊：モアイ像は何を見たか？
（上 真一・元生物圏科学研究科）
- 第12回 平和とスポーツの祭典とオリンピック（渡部和彦・元教育学研究科）
- 第13回 貧困・感染症・国際協力（松田治男・元生物圏科学研究科）
- 第14回 天然物と人間、キニーネとマラリア（深宮齊彦・元生物圏科学研究科）
- 第15回 国際協力の過去と未来（池田秀雄・元国際協力研究科）

令和3年度東広島市民講座が始まります

令和3年度市民講座（主催：東広島市教育委員会，共催：広島大学マスタース）がはじまります。ご近所の方、友人、知人の方々に、ご参加の宣伝をよろしくお願いします。（三浦省五）

（1）「楽しいドイツ語入門 I」（講師：吉田光演）

概要：ミュンヘン、ベルリンなどドイツの街を紹介するテキストを使って、ドイツ語の発音、文法を学びながら簡単な会話を身につけます。初めてドイツ語を学ぶ方が対象ですが、以前にドイツ語を学習された方も歓迎します。（受講される方は事前に下記のテキストを購入して下さい。）

テキスト：矢羽々／リースナー『アンファング-ドイツの街へ（改訂版）』第三書房
（2500円＋税）

定員：20名（抽選）※状況次第で40名

申込締切：5月20日（木）

開講時期：6月12日（土）・19日（土）・26日（土）・7月3日（土）

いずれも 13:30～15:00

会場：東広島芸術文化ホール（くらら研修室1・2）

（2）「小学生のための実践的な将棋講座」（講師：早瀬光司（将棋：五段）

概要：将棋の対局の仕方について講師より説明の後、各受講生の棋力に応じた「駒落ち」を設定して、講師が各受講生と将棋の多面指しを行います。将棋を通して、受講生が「深く考える」、「自分で考える」習慣を身に着けることを目指します。

対象者：すべての回に参加でき、将棋の実戦経験が5～6回以上ある小学生

定員：10名（抽選）

申込締切：7月20日（火）

開講時期：8月4日（水）・5日（木）・11日（水）・12日（木）

いずれも 13:30～15:00

会場：東広島芸術文化ホール（くらら研修室1・2）

(3) 「楽しいドイツ語入門 II」(講師：吉田光演)

概要：ドイツ語の発音、文法の初歩を修得しながら簡単な会話を学びます。ドイツの街、歌なども紹介します。前期の「楽しいドイツ語入門 I」に引き続いて授業を進めます。「ドイツ語入門 I」を受講した方を対象にしますが、受講されていない方でも入門程度の知識のある方は歓迎します。(今回から受講される方は下記のテキストを購入して下さい。)

テキスト：矢羽々ノリスナー 『アンファンク-ドイツの街へ (改訂版)』第三書房
(2500 円+税)

定員：20 名 (抽選) ※状況次第で 40 名

申込締切：10 月 6 日 (水)

開講時期：10 月 30 日 (土)・11 月 6 日 (土)・13 日 (土)・20 日 (土) いずれも 13:30~15:00

会場：東広島芸術文化ホール (くらら研修室 1・2)

(4) 「東広島を楽しくスケッチしよう (高屋町編)」(講師：難波平人)

概要：スケッチの際の構図の決め方、着彩の要領、空間や明暗表現などを研究しながら、風情のある高屋町の二カ所を楽しくスケッチしよう。雨天の時は研修室で、各自の持参した写真を参考にして描きます。各自が道具を持参のこと。

開講時期：11 月 2 日 (火)・9 日 (火)・16 日 (火)・23 日 (火) いずれも 13:30~15:00

スケッチ場所：東広島市高屋町高屋東

集合場所：東広島市 高屋東地域センター

(〒739-2114 東広島市高屋町白市 550 電話：082-434-0304)

募集人数：20 名 (抽選) ※状況次第で 30 名

申込締切：10 月 20 日 (水)

画材：スケッチブック 6 号以上、鉛筆 4B 程度、水彩道具一式 (アクリル、油絵の具も可) 等持参して下さい。

(5) 「市民に身近な法律問題」(講師：鳥谷部 茂)

概要：市民生活の中で最近生じている身近な法律問題についてわかりやすく解説します。

市民に身近な法律問題として、

- ① コロナ感染における法律問題
- ② 特殊詐欺
- ③ 交通事故問題
- ④ 災害弱者への支援

を取り上げる予定です。

定員：20 名 (抽選) ※状況次第で 40 名

申込締切：2022 年 1 月 25 日 (火)

開講時期：2022 年 2 月 5 日 (土)・12 日 (土)・19 日 (土)・26 日 (土)

いずれも 13:30~15:00

会場：東広島芸術文化ホール (くらら研修室 1・2)

※ 市民講座の受講申込み・問合せ：東広島市教育委員会生涯学習課

TEL/082-420-0979 FAX/082-422-1610

一般社団法人「健康づくり E ネット東広島」について

渡部和彦（広大マスターズ会員）

「一般社団法人 健康づくり E ネット東広島」を立ちあげました（令和3年1月）。これまでの経緯と今後の所信について簡単に報告いたします。何分、初めてのことで、不安が先に立っております。皆様方のご指導、ご支援をどうぞよろしくお願い致します。

さて、ことの起こりは、30年ほど前に遡ります。所属学会の「日本体力医学会」で、「高齢者の体力研究班」の班長を仰せつかりました。当時は高齢者の体力の判定基準などは無い時代でした。測定方法、事例研究の検討、シンポジウムなどで数年間が過ぎましたが、全国の高齢者の体力・運動機能等の調査・検証にまでは遠く及ばず、宿題を抱え込み、数年悩み続けました。その過程で気づいたこと、それは、「実生活の中で高齢者が必要とする基本的体力・運動機能は何かを知ること」でした。そこで、特定の地域に介入し、高齢者の健康・体力の考察、さらに、生きがいや地域活性、社会参加等を合わせて考えることにしました。

広島大への赴任以来、公開講座「高齢者の健康・体力づくり教室」を講座のスタッフと続けました。東広島や県内各地で健康づくり教室、講習会などを行いました。これらの経験から、さて、「持続可能な地域の健康・体力づくり」には、単発の講習会・講座だけでなく、「その地域のリーダーをその地域で育成すること」が必要との認識に至りました。

そこで、20年ほど前、市の協力を得て「東広島市生きがい健康体育大学」を立ち上げました（学長：教育長）。受講生は一般市民。栄養学、筋トレ理論等の座学と共に、ニュースポーツ、ヨガ、ウォーキング等の実技を学びます（1単位：2時間、12回）。令和2年度（21期生）は、受講生約30名（市内の住民自治協議会からの推薦者1名を含む）で、修了者には、「東広島市コミュニティ健康運動パートナー・A級資格」が授与される仕組みです（認定書は、小生の「スポーツ健康科学研究所」で発行）。

数年前から、「東広島市生きがい健康体育大学」とは別コースを企画し、とくに、本市の少子高齢・人口減少地域において、多人数・集中型のリーダー育成を試みました。豊栄町、安芸津町の事例を紹介します。住民自治協議会長、地域センター長、地域団体有志の協力を得て、各町それぞれ、約30名の地域リーダーを養成しました（2日間：座学と実技等の集中講義。修了者には、「東広島市コミュニティ健康運動パートナーB級資格授与」）。

現在、豊栄町（「とよさか健康づくりネット研究会」）、安芸津町「（あきつウオーク&フットパス研究会）が生まれ、地域連携・全市連携的、健康づくりネットを形成中です。

「一般社団法人 健康づくり E ネット東広島」は、市民の生きがい・健康・体力づくりの地域モデル形成を目指したい考えです。

末筆ながら、法人立ち上げには、多くの方々にお世話いただきました。とくに、実務作業はじめ、親身にご指導・ご支援をいただいた、菅川健二先生に、心から感謝申し上げます。

* {E} : Exercise (運動)、Education (教育)、そして、Eating (食)

* 理念 : 「Exercise is Medicine (運動はクスリ)

美・談論・公共性—新しい市立美術館に思う

金田 晋 (広大マスターズ会員)

昨年末(12月19日)、下関市立美術館で「美と公共性—公立美術館を考える—」という表題で講演した。常識的には、この二つの語、「美」と「公共性」とは相互に相容れないように聞こえるかもしれない。その思い込みからの解放の必要を語った。

美は、ひとり静かに味わい愉しむもので、公共 public とは相容れない、後者は群れ、公衆を思い浮かべるからである。じっさい、日本の美術館に行くと、「お静かにお願いします」と記されている。仲間と連れ立って行って、一枚の絵の前でその絵のことを話そうものなら、展示室の隅にすわっている女性あるいは男性が近づいてきて、「話さないように」と注意される。友と、あるいは娘と連れ立って行っても、まるで一人であるかのように、沈黙して絵の前に立つ。美を享受するのは孤独の瞬間だ。それが鑑賞のマナーであるかのようなのだ。自分は一枚の絵の中のサツとはかれた筆の勢いに感動しているのだが、隣に立つ友人が何に気をとられているのだろうか。色使いなのか、作家が絵の中に忍ばせたちょっとした工夫なのか。それともそこに描かれている風景からかつて訪ねた土地を思い出しているのだろうか。

ぼくの経験した欧米の美術館は、様子がちがっていた。絵の前で、先生が引率した生徒をすわらせて、その絵の解説をしている。声が響く。独りで入館した客は、その説明に聞き耳を立てている。子どもたちのざわつきも聞こえる。仲間に来た客がいる。一人は絵のある箇所を指さしながら何やら話して、もう一人が相槌をうっている。

美的体験には、ある種の集中力が必要である。それを乱されたくない。だから、その場に関係のない話、選挙の票集めの話しなぞされたら困る。これから行く仕事の予定なども聞きたくない。でもその絵のことについてなら、雑音にならないはずだ。人間の耳は、必要なものだけを聞きとるようにできている。そこが人工補聴器とのちがいだ。どこかで絵につながっている話しをしているなら、かえって当初の美的体験に上乘せしてくれることもある。

18世紀末、美は私個人の体験だと定義して、近代的美意識のパラダイムをつくった哲学者がいる。イマヌエル・カントである。かれは『判断力批判』という有名な書物の中で、美的体験時に働く美的趣味判断は4つの契機(質、量、目的、様相)をもつとした。質から見た第1の契機は、「趣味とは眼の前の物あるいは思い浮かぶ表象を、ただ好き嫌いによって判定する能力」と定義し、その際「いささかの関心ももちこまない。」ことをよしとした。ここで「関心」とはその物に対する評判とか道義心とか損得勘定のようなものを意味していた。長い間、カント解釈ではこの契機が強調され、「無関心の美学」と呼ばれたりした。だが前世紀の80年代から、量から見た第2の契機のほうが大きく取り上げられるようになった。「概念なしに、普遍的に allgemein 好まれるものが美しい。」「概念なしに」とはコトバでの論証とか説得なしにと、言い換えてもよい。そのようなものを横に置いて皆で愉しむ。「普遍的に」とは「皆で」ということだ。カントはここで publice (公共で) という語をつかう。gesellschaftlich (社会的) という語もつかう。自分が美しいと思えば、他人もそう思うはずだ、同意してほしい。「主観的普遍性」、主観的でありながら他人にもその判断を共有してもらいたい。だが

ときには、それが不当に他人に美しいという同意を押し付けることもあうだろう。隣にいる者は、かえって迷惑がっていることがあるかもしれないことを、カントは知っていた。それでも同意を強要できるのは、美しいという感情の特権だ。‘Allgemeingültigkeit’はカントの邦訳書では「普遍妥当性」という硬い訳語をあてている。だがそれは「普遍的だと思える。ふつう普遍的と認められているが、そうでないこともある。」という意味である。相手は「ノー」と拒むかもしれない。それでも同意、相槌を求める。それが「美しい」と感動した者の性(さが)なのだ。そのすれ違いが、美的感動をさらに広く、深くして行くこともある。「他人ガドウ思オウガ、オレガ気ニ入レバソレデイイ。」は「美しい」という判断でないのである。

趣味判断の第2契機(量)が読み直された頃、ユルゲン・ハーバーマスの『公共性の構造転換』がヨーロッパの若者層でベストセラーになっていた。「公共圏 public sphere」がキーワードだった。近代社会が作り上げた「国民国家」は既に体制が硬直化してしまっている、むしろ18世紀にロンドンで3000店を超えたというカフェが、近代市民社会のひな型である。テーブルを囲んで話題が盛り上がり談論はいつ果てるともなく続く。もう一つの例にあげるのは、その同じ頃、パリのルーヴル宮殿の一角が美術展に開放され、サロンとよばれていた。画家、批評家、画商、愛好家等が会場いっぱいになり、盛況であった。近年、佐々木健一東大名誉教授の1000頁に及ぶ畢生の労作『ディドロ「絵画論」の研究』(中央公論美術出版部)に、長文の書評を書く機会があり、ディドロの多くの「サロン評」にも眼を通したが、それらをとおして当時の批評、書簡、紙誌に載る記事の活気と内容の濃密さを知った。身分も学歴も職業も年齢差も超えて続ける談論(談話と議論)、今様に言えばコミュニケーションが「公共性」の活動原理にあげられた。

カフェやサロンという18世紀に生まれた特有の集会形式が呼び起こされ、談論を保障せよという自由への意志が80年代末「ベルリンの壁」を壊し、国家間の東西冷戦体制を過去のものにしていった。私は下関市立美術館の講演で、戦後広島市の立町境界の焼け跡に生まれた掘っ立て小屋の並ぶ飲み屋街なめくじ横丁と、そこに開いた画廊鼻の歴史模様を紹介し、それを「公共性」空間の広島ヴァージョンとして語ってみた。

日本の美術館は、静かすぎるように思う。沈黙して感動を自分の心にしまし、それをよしとされる。観客は、作品を有難く拝観するだけ。だがそれと反対の場面があっている。作品の前に「公共圏」が広がっているのではないか。特に公立美術館は、そのような場であってもいいのではないか。

惟えば、世の中は、議論に結論を求めすぎる。「いつまでクダクダ話しているのか。」と怒られることもある。だが結論を急がないで、むしろ取り上げる話題に潜む問題性を広め深める談論があってもいいのではないか。

絵の前は、公共性の場であってよい。コーヒーもウィスキーも日本酒も出ないが、談論のコトバが自由に行き交う場であっていい。そうした談論法をトレーニングする場になっている。美は談論にむしろ適している。新しい市(公)立美術館に、それを期待している。

私は、わがマスターズが支援するちゅーピーカルチャセンターで8年間月2回「近代美術の世界」という講座を開いてきた。出席者は美術を語り合う技術を学んでいる。

会員情報

(1) 訃報

下記の会員の訃報が寄せられました。謹んでご冥福をお祈りします。

西川恭治会員(理学部 1997 年退職) 2020 年 12 月 11 日ご逝去

吉田二美恵会員(図書館 2002 年退職) 2019 年 6 月 28 日ご逝去

(2) 新入会員について

令和 2 年度(9 月以降)に下記の 1 名の新入会がありました。

相田美砂子会員(元理学研究科)

【広島大学マスターズ事務局】

(郵便物宛先) 〒739-8601 東広島市西条栄町 8-29

東広島市市民協働センター内 メールボックス No.5 「広大マスターズ」

Eメール : masters@hiroshima-u.ac.jp

URL : (会員版) <https://masters.hiroshima-u.ac.jp>

(かわら版) <https://hirodaimasters.web.fc2.com/index.html>